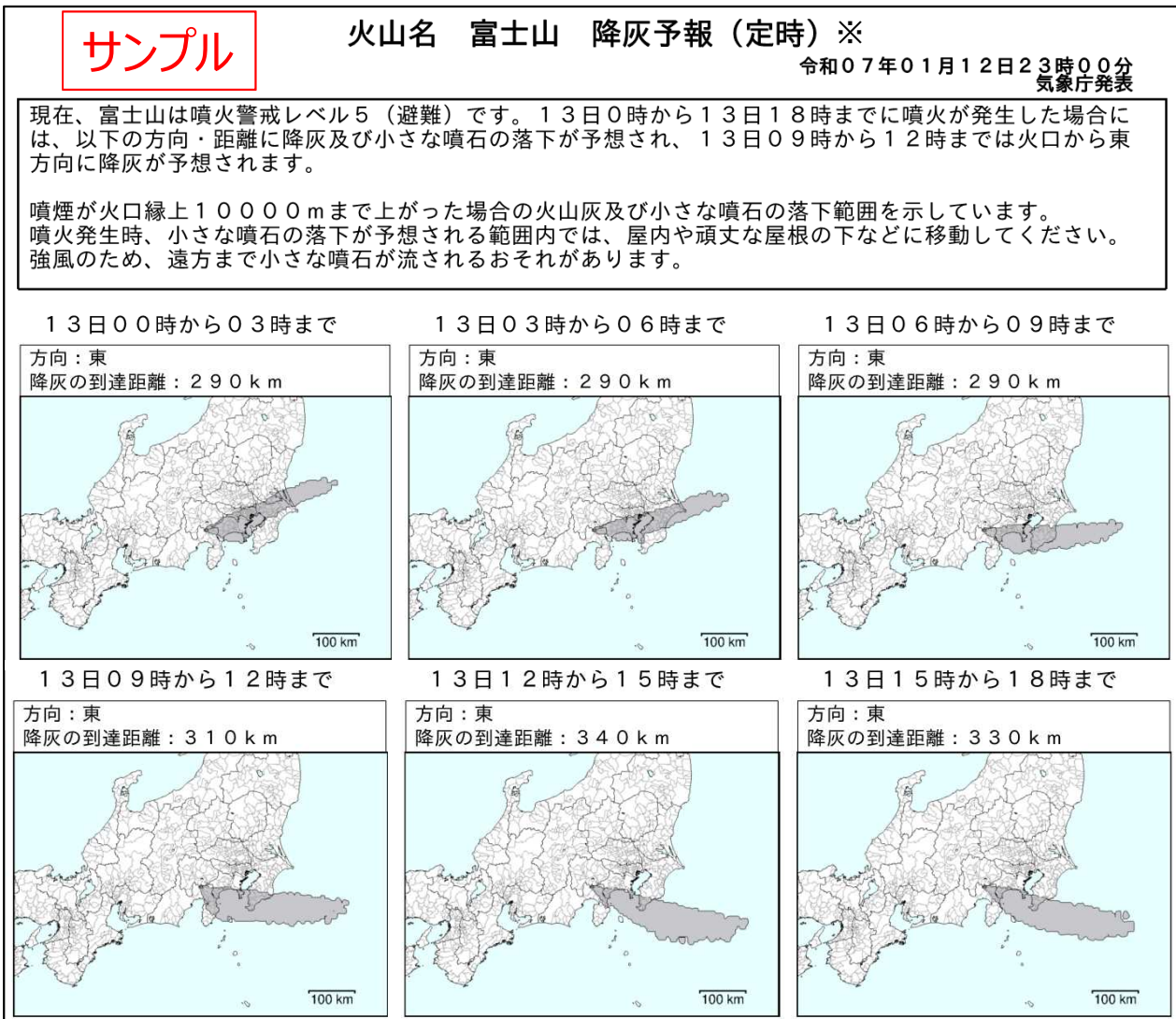


噴火前に提供する降灰予測情報 について

検討課題 4：噴火前に提供する降灰に関する情報のあり方

（現状）気象庁は、噴火警報発表中の火山で噴火により人々の生活に影響を及ぼす降灰が予想される場合、噴火発生前にも定期的に降灰予報（定時）を発表しているが、降灰の範囲を示しているのみで、降灰量の予測は示していない。

【論点】噴火の発生前に噴火警戒レベルを4または5に引き上げた場合、降灰予報（定時）で想定しているものより噴火規模（噴煙高度・噴火継続時間）が上回ることもあり得るが、噴火前の正確な予測は困難。これを踏まえると、どのような情報提供が適切か。

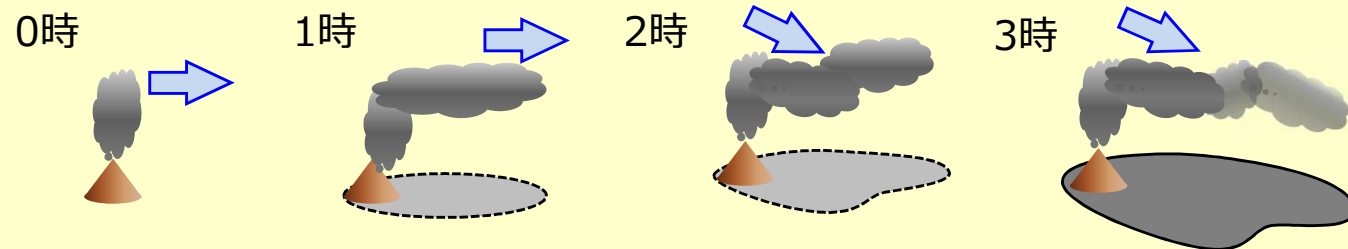


※：小さな噴石の落下範囲の予測図は省略

噴火の発生前に噴火の時刻や規模を正確に予測することは困難なため、降灰予報（定時）では、今後予想される噴火の発生時刻や噴火規模（噴煙高度・噴火継続時間）を仮定して予測計算を実施

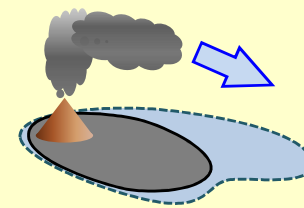
- （１）対象火山で発表中の噴火警戒レベルに応じて噴煙高度を設定する。
（例えば、1000m、3000m、5000m、10000m）
- （２）（１）で想定した規模の噴火が、今後の特定の時間帯（18時間先まで、3時間区切り）に発生した場合の、降灰の最大範囲を図示する。

噴火が0時～3時に発生した場合の降灰の最大範囲



シミュレーション上は噴火を0時～3時まで継続させて計算している。

実際に2時に噴火が発生



0時～3時の間に想定規模内の噴火が発生した場合、降灰範囲は予測の範囲の一部になる。

降灰予報（定時）では、特定の時間帯の風の影響を受けた降灰範囲の把握が目的であり、実際の噴火の発生時刻や噴火規模は様々となるため、降灰量の結果は示していない。

